

『向島の豊かな自然と生きものたち』

第37回 虫の標本作り

美しく、きれいで、かわいくて、かっこよくて、不思議な虫たちと触れ合う、面白くて楽しい昆虫採集。

採った虫の名前を調べて、採集日や採集場所、地名や採った人の名前を書き込んでデータラベルを作り、それぞれの虫に付けて標本箱に種類別に並べて見ると、今まで気づかなかった虫の特徴が見えてきたりします。

そもそも、なぜ「標本」にするのでしょうか？虫を標本にする理由を考えてみましょう。標本にするものは、虫以外に、草・花・鳥・魚・石などもあり、その他いろいろな物を標本にして残すことができます。

虫の成虫は主に乾燥させて残しますが、アルコールに漬けて標本にする動物もあります。

いずれの標本も、大事なことは「データを添える」こと！データが無いと意味のないものになってしまいます。いつ、だれが、どこで採集したか。が、標本には欠かせません。

種名がわからない虫でも残しておく、何年か後で名前が分かる場合もあるし、なんといっても標本として残しておけば、同じように見える虫の「微妙な違い」を見比べることで、新しい発見もあるかもしれません。

「向島にどれだけの昆虫がいるのだろうか？」と疑問に思ったとしたら、それを知るには片っ端から虫を採ってみることである。しかし、採った採った。と言葉で言っても説得力がない…ではどうするか…

そうです！標本にして残すことです！

これから何年か何十年か先に、向島からチョウやバッタの姿が消えたとしても、チョウやバッタがいたという「証拠」がないと、何がいて何がなくなったのか。それさえもわからないのですから。

大げさな話のようですが、虫好き少年が見つけた「虫」が、何年か後になって、楽しかった少年時代を思い出すきっかけになるだけでも楽しいじゃありませんか！

もっと言えば、少年は大人になり博物館で働くことになるかもしれませんよ。その時に、向島では絶滅した虫を保管していたならば…どーでしょう？！

きつときつと、昔の昆虫採集と標本作りが役に立つことでしょ。

花と鳥と昆虫と海辺に遊ぶ
つるかめクラブ